



日光東町まちづくり規範

日光東町まちづくり推進委員会
ワーキンググループ





はじめに

～目次～

はじめに	日光東町まちづくり推進委員会挨拶	……	i
	序文	……	ii
規範	規範のテーマ	……	1
	まちづくり規範	……	2
	街並み規範	……	16
参考資料	【資料1】 保全すべき資源	……	(1)
	【資料2】 保全すべき資源をめぐるルート例（資源リスト）	……	(2)
	【資料3】 「祭 <small>いのり</small> のまち」に似合う和風の建物	……	(5)
	【資料4】 日光東町における屋外広告物の手引き	……	(8)
	【資料5】 「街路デザイン」と街並み・まちづくりについて	……	(10)

平成17年6月

「日光東町まちづくり規範」の初版完成について

日光東町まちづくり推進委員会

日光東町は、世界遺産「日光の社寺」の門前町としてふさわしい街並み景観形成と、住み良く活気のあるまちづくりを進めるため、平成15年5月に「日光東町まちづくり推進委員会」と「日光東町まちづくり推進委員会ワーキンググループ」を立ち上げました。

ワーキンググループでは、東町まちづくりのテーマを「祭^{いのり}のまち」と設定し、「まちづくり」や「街並み」に関する多くの項目について43回もの会議を重ね、今回の「日光東町まちづくり規範」初版を作り上げました。

当委員会では、この「日光東町まちづくり規範」には地域の歴史や文化をはじめ、東町のまちづくりに必要な要素が十分盛り込まれ、将来のまちづくりに必ず役立つとの考えから、承認いたしました。

これからは、「日光東町まちづくり規範」を基本に、地域の皆様と心を合わせて、世界に誇れる街並みやまちづくりを推進していきたいと思っております。

なお、この規範はまちの発展や進展とともに、追加・改変・深化し成長するものと聞いております。

今後とも多くのご意見やご要望を、委員会やワーキンググループにお寄せくださいますようお願い申し上げます。

序文 「日光東町まちづくり規範」について

日光東町まちづくり推進委員会ワーキンググループ

平成 17 年 5 月

日光東町まちづくり推進委員会ワーキンググループ（以下、「ワーキング」という）は、平成 15 年 6 月から平成 17 年 5 月の約 2 年にわたり、私たちの暮らす東町まちづくりの基本となる「日光東町まちづくり規範（以下、「規範」という）」について議論して参りました。

規範は今の時点で完成したものではありません。これからも私たちの手で、まちづくりの基本原則としてより良いものに育てていくものです。

この規範の性格や利用については以下の通りです。

（１）規範を作成するに至った背景

——まちづくりの経緯

日光東町の活性化の議論は、平成 6 年に日光青年会議所のメンバーが日光市の将来像を検討し、問題提起を始めると、平成 9 年には、その中の有志によって「街並み協議会」が発足し、10 余年もの間、議論し続けられてきたと言えます。その後、自治会から任意に構成された「日光東町街並整備検討委員会」によって、日光東町のあるべき街並みの姿が議論され続け、その成果の一部は、平成 14 年度の「日光東町街並みづくり」パンフレット（タイトル：日光東町街並景観形成のために）に示されるに至りました。

折しも、日光東町では、国道の再整備が着手されつつあり、また、関連する各種の事業が動き出しています。平成 17 年 1 月には、全国の先陣を切って日光市が景観行政団体となり、平成 17 年 3 月には、神橋の修復工事が竣功されるなど、日光東町を巡る動きがここに来て集中してきています。今がまさに、日光東町のまちづくりの重要な時期となっています。

——これからのまちづくり

「頑張ろう」と気がついた時がスタートの時です。日光東町の人々が、ここに来てひとつになって「頑張ろう」という気持ちをなんとか示したい、今後頑張っていくための道しるべがほしい、という思いから行動した第一歩が「日光東町まちづくり規範」です。したがって、これからより多くの「頑張ろう」という気持ちが、この規範に積み重なっていくのだと思います。これからは、日光東町のまちのあり方を見つめ直し、「住んでよし、訪れてよし」の言葉どおり、ここに暮らす人々にとっても、日光を故郷にもつ子供達にとっても、また、観光客の方々にとっても「魅力あるまち」をつくっていきましょう。

(2) 規範の性格

規範は、日光東町の住民がまちづくりを行っていくために取り組みたい思いや気持ちをまとめたものです。日光東町に暮らす私たちが、大切にしたいこと、守っていききたいことを共通の目標、項目として設定しました。

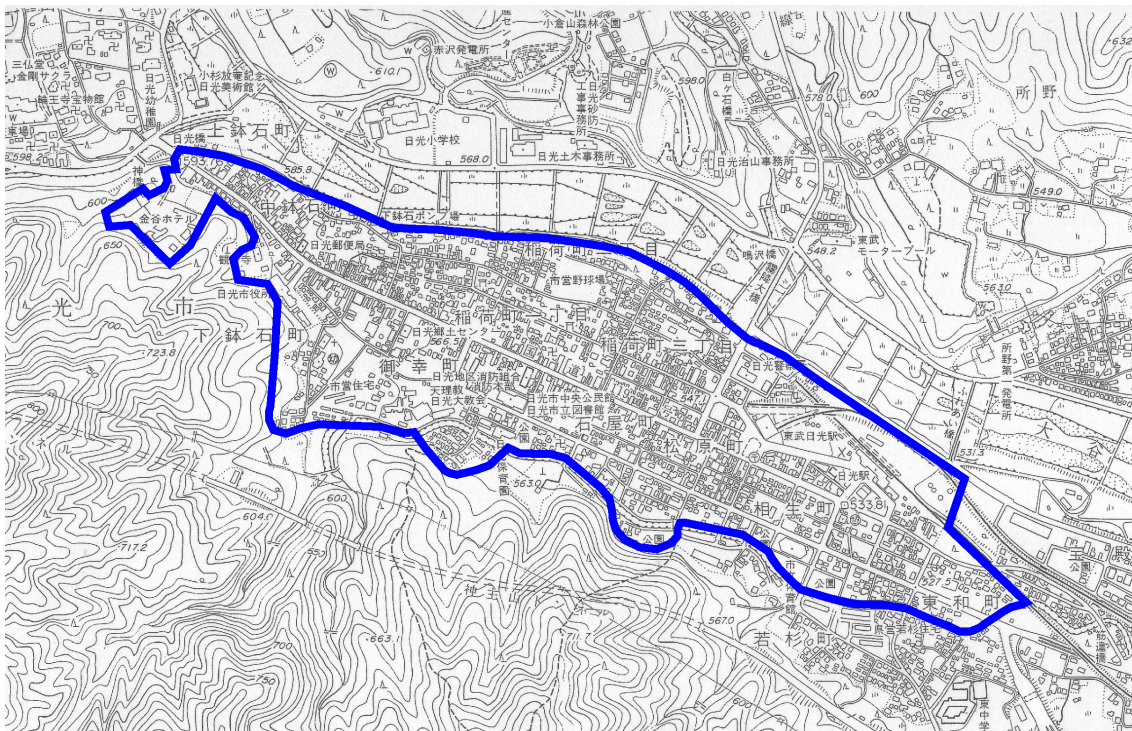
今後もまちづくりに必要と思われる項目で、私たちが合意できる内容は、随時この規範に加筆されます。

規範は、日光東町のまちづくりの進展と共に、追加、改変され、深化していくものです。

(3) 規範と日光市街並景観条例

日光市街並景観条例（以下、「条例」という）は、私たちが守らなければならないルールです。そして規範は、条例に基づいてよりよいまちづくりを目指すための自主的な取り組みです。

例えば、条例では、建築物等の外観は「和風を基調とする」としか決められていません。しかし規範では、色や形状など具体的な内容を決め、私たちが協調して取り組んでいきます。



図一 日光市街並景観条例の対象地域（東町地区）

(4) 規範のテーマ

規範のテーマは、「^{いのり}祭のまち」です。

日光東町は、1617年、日光山に徳川家康公が鎮座されてから、門前町が形成されたことに始まります。また、この地域のもつ精神性は、勝道上人が開山して以来の山岳信仰も受け継いでいます。

つまり日光東町は、山岳信仰にはじまり、二社一寺に対する信仰など、長い歴史に裏打ちされた「いのり」に通じる町といえます。

「いのり」の心は、弥生祭を始め数々の祭りを育くんで参りました。そして「祭り」は、若衆制度等の伝統的な仕組みに支えられ、コミュニティ形成上の重要な行事となっています。

このような歴史性、文化性を改めて見つめ直すと共に、多くの人々を迎え入れ、その思いをも受け入れることのできる懐の深いまちとして、日光東町は「^{いのり}祭のまち」、という特有なテーマを設定いたしました。

(5) 規範の構成

規範は、「まちづくりの視点」「まちづくりの作法」「考え方」「留意事項」「参考」から構成されています。

「まちづくりの作法」の内容がイメージしやすいようアイデアや例示を盛り込み、「^{いのり}祭のまち」のテーマに基づいた「まちづくりの作法」の1テーマが1枚にまとめられています。

- まちづくりの視点：まちづくりを行う上での基本項目を明示しています。
- まちづくりの作法：私たちの具体的な取り組み項目です。
- 考え方：まちづくりの作法を分かりやすく解説しています。
- 留意事項：まちづくりの作法に基づき、今後、具体的に取り組んでいこうとする際に留意しなければならないポイントを記しています。
- 参考：参考となるアイデアや例示を掲載しています。

(6) 議論の体制・・・どのように決められたか？

ワーキンググループは、関係自治会長からなる「日光東町まちづくり推進委員会」（以下、「委員会」という。）の協議組織として、上鉢石町、中鉢石町、下鉢石町、御幸町、石屋町、松原町の自治会毎に、推薦を受けた2名(計12名)と関係機関の代表者で構成されました。

ワーキング会議は、委員会から付託された事項などを調査、検討するため、月に数回開催され、平成17年4月までに、全40回を数えました。

ワーキング会議で検討された内容やこの規範は、委員会で承認されたものです。

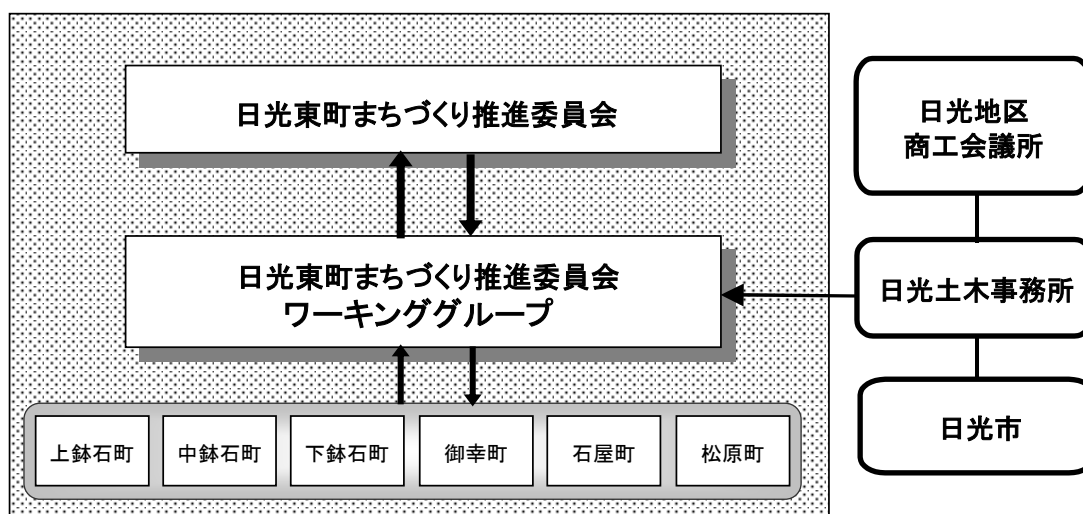


図-2 議論の体制


(7) 規範の運用について

この規範は、対象区域各戸に一部ずつ配布されています。対象区域に暮らす人々、働く人々は、この規範を念頭において「まちづくり」や「街並みの形成」に活用していきます。

新たに対象区域で暮らすことになった方々、働く方々にもこの規範を配布しますが、こうした方々に対しては、隣り近所や自治会から規範の精神や考え方を直接伝えていくことも必要です。

日光東町のまちづくりの長い道のりの間に出てくる課題や問題解決のため、これからも新たな「まちづくりの作法」を検討していきます。新たな「まちづくりの作法」については、定期的に委員会に諮り、対象区域全体の合意事項とし、対象区域各戸に配布され、追加していきます。

そうすることにより、規範は、まちづくりと共に成長し、名実共に、日光東町の「まちづくりの基本」となります。



規範

～目次（規範項目）～

規範のテーマ	「 ^{いのり} 祭のまち」	… 1
--------	------------------------	-----

まちづくりの視点	No.	まちづくりの作法	頁
【まちづくり】			
保全すべき資源の活用	A-1	「日光東町学」の確立を目指しましょう	… 2
	A-2	伝統行事を大切にしましょう	… 3
	A-3	家体が見られる工夫をしましょう	… 4
	A-4	日光の豊かで美しい水を守りましょう	… 5
	A-5	日光東町を巡るツアーを企画しましょう	… 6
回遊性の高いまちづくり	B-1	横町や路地を楽しめるようにしましょう	… 7
	B-2	街なかの空地を活かして駐車スペースを確保しましょう	… 8
賑わいのあるまちづくり	C-1	商業力を高めましょう	… 9
	C-2	空家空店舗を活用しましょう	… 10
おもてなしのまちづくり	D-1	店先を美しくしましょう	… 11
	D-2	夜の灯りを演出しましょう	… 12
	D-3	休憩スペースを提供しましょう	… 13
	D-4	ふれあいのある観光案内をしましょう	… 14
	D-5	バリアフリーを推進しましょう	… 15
【街並み】			
各町の特徴を活かしたまちづくり	E-1	町の性格の違いを活かしましょう	… 16
	E-2	町印やイメージカラーの活用を図りましょう	… 17
調和した街並み	F-1	現存する和風の建築を参考にしましょう	… 18
	F-2	天然の素材にこだわりましょう	… 19
	F-3	壁面と屋根の基調となる色を尊重しましょう	… 20
	F-4	街並みに合った看板にしましょう	… 21
	F-5	建物と空間の連続性に配慮しましょう	… 22

日光東町まちづくりメインテーマ

いのりの祭りのまち

●いのりの祭りのまちとは・・・

日光東町では、弥生祭から町ごとに行われるお祭り（東町6ヶ町のお祭り、虚空蔵尊会、八坂祭、大杉神社例祭、磐裂神社例祭 など）まで大小さまざまな祭りが行われています。これらの祭りは、地区のコミュニティの象徴であり、自治会を越えて共通に認識できるもので、今後も守り続けていくべき文化のひとつといえます。

まちづくりとは、人づくりであり、東町の文化と共に世代を越えて受け継がれていくことが重要です。これからも「祭り」を中心としたコミュニティが受け継がれていくためにも、「祭」から発想していくまちづくりを行うことが大切です。

また日光の特徴として、二社一寺に代表される神社仏閣の信仰だけでなく、いろいろな信仰の聖地であるという考え方が出来ます。新しい日光を創っていくために、あらゆる信仰や願い、つまりは、さまざまな「いのり」の気持ちが集まってくる懐の深い神聖な場所として品格のあるまちづくりを目指します。



弥生祭で花家体がまちの中を練り歩く様子

●いのりの祭りのまちづくりの考え方

いのりの祭りのまちづくりは、以下のような視点に基づいて考えていきます。

- 「いのり」は信仰に限ったことではなく、日光を訪れた人々を迎えるという気持ちと、訪れた人々の願いをかなえるという意味とする。
- 日光駅から神橋までの1.4kmの道のりを歩いていくにしたがって、気持ちが落ち着き神聖な気持ちになっていくようなまちなかの空間づくりをおこなう。



1800年前半頃の松原町付近の木戸の絵(出典:「日光山志」)

■まちづくりの視点	保全すべき資源の活用	A-1
-----------	------------	-----

■まちづくりの作法 「日光東町学」の確立を目指しましょう！

【考え方】

日光東町の保全、活用すべき資源について、そこに住む私たち自らがまず研究し、理解を深め、世界文化遺産に指定された地であることに誇りを持ち、観光客等への語り部となれるよう、「日光東町学」の確立を目指した活動を行っていきましょう。

【留意事項】

- ・日光東町には、これまでに培われてきた歴史と伝統や生活文化、神社仏閣、信仰の対象がたくさんある。これらの日光東町の資源は、住民に認識されていないものも多い。
- ・「日光東町学」は、長い活動の中で積み重ね、総合化、体系化されていくものとする。
- ・「日光東町学」の研究の経過や成果は、シンポジウムなどを定期的に行い、公表していく。
- ・これらは、日光東町の回遊性の高いまちづくりに活かされる。

【参考】

●日光学の例示：日光神話のコスモロジー

日光は、風水思想を超えた神秘の逸話がある。日光東照宮の配置は、滝尾神社、外山、釈迦堂、本宮等で「オリオン座」を形成し、これらと関連して、女峰山、赤薙山、丸山等で「北斗七星」を形成する。また、男体山は「北極星」に見立てることができ、さらに、中禅寺湖に点在する、二荒山中宮祠、華厳の滝、立木観音、旧五大尊岩が「はくちょう座」を形成するという。

家康の霊廟を日光に移した天海大僧正は、この日光の山々の壮大なコスモロジーを意識していたと言われる。

二社一寺は、「神橋」で聖別される聖なる世界の表の世界で、中の世界は、中禅寺湖、戦場ヶ原等、奥の世界は、神々が宿るそれぞれの山頂である。

東照宮を中心とした結界は、南を男神新宮、北西を女神滝尾、東南を若宮本宮の二等辺三角形で形成されている。

こうした風水に基づく思想は、基本的に1,200年前の勝道上人の宇宙観と同じと言われる。

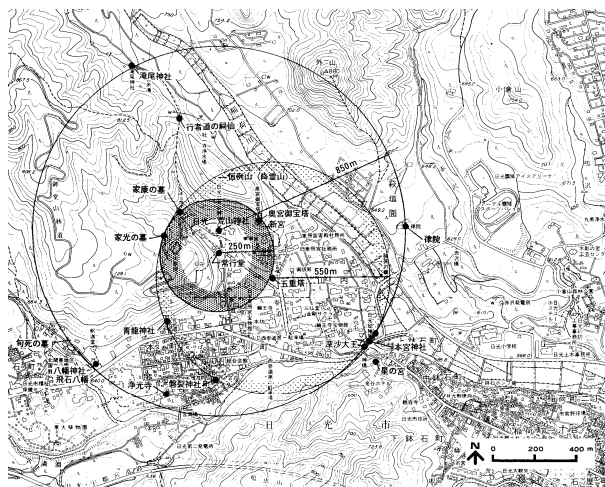


図 天海大僧正による二社一寺を取り巻く結界

(出典:「日光山小史」 山本忠史)

●その他

- ・全国各地で実施されている地域学の実施主体は、県や市町村などの行政、大学等の高等教育機関、NPOなどの市民団体と多様です。また、それぞれの地域学は独自の目的や方法を持ち活発に活動を展開し、それぞれが成果をあげています。

■まちづくりの視点	保全すべき資源の活用	A-2
-----------	------------	-----

■まちづくりの作法 伝統行事を大切にしましょう！

【考え方】

「祭のまち」に名実ともにふさわしい、まちづくりを推進するために、昔から伝わる伝統行事を各家々でも大切にし文化を守っていきましょう。

【留意事項】

・代表的なお祭り(→【参考】)だけでなく、七草・節分・初午祭・ひなまつり・端午の節句(菖蒲湯)・七夕・十五夜(お月見)・戎講(えびす講)・冬至(柚子湯)など、各家で行う四季折々の年中行事を生活の中に取り込んでいく。

【参考】

＜日光市全域＞

●弥生祭(4月13～17日)

(栃木県指定無形民族文化財)



2004年弥生祭

「日光の春は弥生祭から」といわれるように、毎年4月13日の本社・滝尾・本宮の三社の神輿飾りの式を皮切りに、17日まで5日間に渡り繰り上げられます。

神護景雲年間(767～770)に始まるといわれる伝統ある例大祭で、その昔は太陰暦3月に行われたので、弥生祭と呼ばれ、明治6年に太陽暦に改められた時に、祭日を現在のように変えたといわれています。

各町内の家体がそろって、古式ゆかしい作法で各町の行事2名、頭役1名が他町を訪れて挨拶を交わす「名刺交換」が行われ、続いて東町8台・西町4台の計12台の花家体が神社の拝殿の周囲を、囃子を奏でながら一巡する「神明廻り」が繰り上げられます。この祭りは、古いしきたりを重んじ、格式通りに万事進めなければならず、ひとつ間違えると町内同士のトラブルになることから「ごた祭り」「ケンカ祭り」の異名をとっています。

(出典:「日光パーフェクトガイド」より参照)

●山岳信仰に基づく行事

- ・花供峰(はなくのみね)
- ・日光山大千度修行
- ・修行僧のお練りの法楽 など

＜日光東町の自治会ごとの行事＞

●六ヶ町共催

- ・虚空蔵尊(1月9日)
- ・八坂天王祭(6月15日)
- (※ただし、下鉢石町は7月15日)
- ・磐裂神社(7月3日 星の宮)
- ・大杉神社(9月27日)

●自治会別

自治会名	祭り・行事日	祭り・行事名	備考
上鉢石町	1月 2月午の日	どんど焼き 初午祭	
中鉢石町	1月12日	初市	
下鉢石町	1月14日	どんど焼き	
御幸町	1月第2日曜日 2月午の日 5月3日 6月15日 9月3日 12月3日 11月3日	どんど焼き お日待 虫干し	※慈眼大師 天海大僧正画像開帳 輪王寺より参詣 天海僧正お墨付 『御代々御証文書』14状
石屋町	1月8日 1月14日 3月8日	八坂神社新年祭 どんど焼き 金剛童子尊	八坂神社例祭 石屋町・松原町両町で
松原町	1月14日 3月8日	道陸神社 どんど焼き 金剛童子尊	 石屋町・松原町両町で

■まちづくりの視点	保全すべき資源の活用	A-3
-----------	------------	-----

■まちづくりの作法	家体が見られる工夫をしましょう！
-----------	-------------------------

【考え方】

町ごとにある家体を見る機会は、年に一度の弥生祭の日に限られています。家体の展示の仕方を工夫し、観光資源として活用していきましょう。

【留意事項】

- ・現在、二階建ての本家体は二荒山神社境内、日光木彫りの里、郷土センターに展示のものを含め6台が保存されている。
- ・各町の家体庫は、観光客に巡ってもらえるように外から見る事ができるような工夫をしていく。

【参考】

●日光東町の家体

- ・4月に行われる「弥生祭」において、各町ごとに造花やちょうちん、幕などで飾りつけをした家体が町内から日光二荒山神社内まで練り歩きます。
- ・ほとんどの町内が「家体庫」をもち、祭りが終わって次の祭りまでの間、この「家体庫」に家体は保管されています。
- ・日光郷土センターに稲荷町の本家体(旧家体)が展示されています。



郷土センターに展示されている稲荷町本家体

●板挽町の家体庫の例

日光西町の板挽町の公民館には、家体を外から見られるように見学窓や祭りの様子を絵にして取り付けた家体庫があります。



板挽町の家体庫

■まちづくりの視点	保全すべき資源の活用	A-4
-----------	------------	-----

■まちづくりの作法	日光の豊かで美しい水を守りましょう！	
-----------	--------------------	--

【考え方】

日光は、山々から湧き出る清水のおかげで、美しい水が豊富な地域です。また、水は禊に必要のもので、テーマである「いのりのまち」にふさわしい要素と考えられます。日光の豊かで美しい水を守っていきましょう。

【留意事項】

- ・日光東町では、ポケットパークなどで水がいろいろ演出されている。



消防署前のポケットパーク



日光市役所入口のポケットパーク

- ・水は安全上、衛生上、取り扱いが難しい。したがって、水の管理には、地域住民の協力が不可欠となる。
- ・水を用いる以上は、飲んでも問題の無い水とすることが観光客にとって、よいアピールとなる。

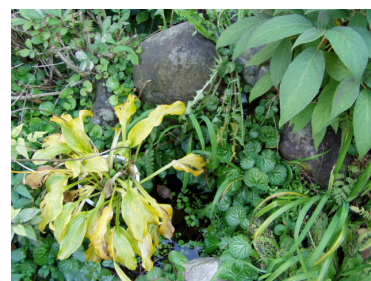
【参考】

日光東町には、水に触れられる場所が数多くあります。

神橋と大谷川の
流れ



日光物産横



天海僧正の
ポケットパーク



日光市役所の
入り口の
ポケットパーク



消防署前の
ポケットパーク



■まちづくりの視点	保全すべき資源の活用	A-5		
■まちづくりの作法	日光東町を巡るツアーを企画しましょう！			
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【考え方】</p> <p>日光東町には、知る人ぞ知る、歴史的言われや祠、道祖神等々がたくさんあります。これらに物語性を与え、上手につなぎ、観光客にも楽しめる散策コースとし、回遊性の高いまちづくりに取り組みましょう。</p> <p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々なコース、物語性を持った「街中ツアー」を企画をするなど、観光客を案内してもらえる仕組みをつくる。 ・地元の住民が長い歴史の中で培われた数多く残されている歴史、文化資源を見直すことは、町を知るために重要なことであり、観光客とのコミュニケーションの材料にもなる。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【参考】</p> <p>●日光東町を巡るツアー例 (→詳しくは、[資料2]を参照)</p> <p>日光東町の寺社や史跡などの資源を巡り、街中を回遊してもらうためのコース例として、次のようなものが考えられます。これらを活用した「街中ツアー」を企画し、観光客に東町の中を歩いてもらいましょう。</p> <p>1. コース1: 稲荷 社のみち</p> <p>JR日光駅 → 東武日光駅 → 龍蔵寺</p> <p>→ 稲荷神社 → 西行戻石 → シダレザクラ</p> <p>→ 虚空蔵尊社 → 芭蕉歌碑</p> <p>2. コース2: 山の辺のみち</p> <p>松原町石碑群 → 龍蔵寺墓地 → 最勝寺</p> <p>→ 天王山 → 天理教大教会 → 姫小松</p> <p>→ 郷土センター → 薬師堂 → 日光市役所</p> <p>3. コース3: 門前 鉢石のみち</p> <p>鉢石 → 観音寺 → 観音堂 → 龍臥山</p> <p>→ 板垣退助像 → 上鉢石稲荷社</p> <p>→ 星の宮(磐裂神社) → 星宿跡 → 金谷ホテル</p> <p>→ 下乗石 → 蕪村句碑 → 神橋</p> <p>→ 天海大僧正銅像 → 本宮神社</p> <p>→ 小杉放菴記念日光美術館</p> </td> </tr> </table>			<p>【考え方】</p> <p>日光東町には、知る人ぞ知る、歴史的言われや祠、道祖神等々がたくさんあります。これらに物語性を与え、上手につなぎ、観光客にも楽しめる散策コースとし、回遊性の高いまちづくりに取り組みましょう。</p> <p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々なコース、物語性を持った「街中ツアー」を企画をするなど、観光客を案内してもらえる仕組みをつくる。 ・地元の住民が長い歴史の中で培われた数多く残されている歴史、文化資源を見直すことは、町を知るために重要なことであり、観光客とのコミュニケーションの材料にもなる。 	<p>【参考】</p> <p>●日光東町を巡るツアー例 (→詳しくは、[資料2]を参照)</p> <p>日光東町の寺社や史跡などの資源を巡り、街中を回遊してもらうためのコース例として、次のようなものが考えられます。これらを活用した「街中ツアー」を企画し、観光客に東町の中を歩いてもらいましょう。</p> <p>1. コース1: 稲荷 社のみち</p> <p>JR日光駅 → 東武日光駅 → 龍蔵寺</p> <p>→ 稲荷神社 → 西行戻石 → シダレザクラ</p> <p>→ 虚空蔵尊社 → 芭蕉歌碑</p> <p>2. コース2: 山の辺のみち</p> <p>松原町石碑群 → 龍蔵寺墓地 → 最勝寺</p> <p>→ 天王山 → 天理教大教会 → 姫小松</p> <p>→ 郷土センター → 薬師堂 → 日光市役所</p> <p>3. コース3: 門前 鉢石のみち</p> <p>鉢石 → 観音寺 → 観音堂 → 龍臥山</p> <p>→ 板垣退助像 → 上鉢石稲荷社</p> <p>→ 星の宮(磐裂神社) → 星宿跡 → 金谷ホテル</p> <p>→ 下乗石 → 蕪村句碑 → 神橋</p> <p>→ 天海大僧正銅像 → 本宮神社</p> <p>→ 小杉放菴記念日光美術館</p>
<p>【考え方】</p> <p>日光東町には、知る人ぞ知る、歴史的言われや祠、道祖神等々がたくさんあります。これらに物語性を与え、上手につなぎ、観光客にも楽しめる散策コースとし、回遊性の高いまちづくりに取り組みましょう。</p> <p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々なコース、物語性を持った「街中ツアー」を企画をするなど、観光客を案内してもらえる仕組みをつくる。 ・地元の住民が長い歴史の中で培われた数多く残されている歴史、文化資源を見直すことは、町を知るために重要なことであり、観光客とのコミュニケーションの材料にもなる。 	<p>【参考】</p> <p>●日光東町を巡るツアー例 (→詳しくは、[資料2]を参照)</p> <p>日光東町の寺社や史跡などの資源を巡り、街中を回遊してもらうためのコース例として、次のようなものが考えられます。これらを活用した「街中ツアー」を企画し、観光客に東町の中を歩いてもらいましょう。</p> <p>1. コース1: 稲荷 社のみち</p> <p>JR日光駅 → 東武日光駅 → 龍蔵寺</p> <p>→ 稲荷神社 → 西行戻石 → シダレザクラ</p> <p>→ 虚空蔵尊社 → 芭蕉歌碑</p> <p>2. コース2: 山の辺のみち</p> <p>松原町石碑群 → 龍蔵寺墓地 → 最勝寺</p> <p>→ 天王山 → 天理教大教会 → 姫小松</p> <p>→ 郷土センター → 薬師堂 → 日光市役所</p> <p>3. コース3: 門前 鉢石のみち</p> <p>鉢石 → 観音寺 → 観音堂 → 龍臥山</p> <p>→ 板垣退助像 → 上鉢石稲荷社</p> <p>→ 星の宮(磐裂神社) → 星宿跡 → 金谷ホテル</p> <p>→ 下乗石 → 蕪村句碑 → 神橋</p> <p>→ 天海大僧正銅像 → 本宮神社</p> <p>→ 小杉放菴記念日光美術館</p>			

■まちづくりの視点	回遊性の高いまちづくり	B-1
■まちづくりの作法	横町や路地を楽しめるようにしましょう！	

【考え方】

日光東町には、由来のある横町があります。観光客の中には、こうした横町や路地に関心や期待を持つ人も少なくありません。

横町や路地が魅力的になれば、観光客もその町を回遊しながら散策するようになります。

横町や路地を十分活かした、ハード、ソフトの仕掛けを作りましょう。

【留意事項】

- 日光東町には、以下のような横町がある。
 - ☆横町：大通り(国道 119 号)からの脇道
 - ①大横町(八乙女横町、火之番横町)、
 - ②きなこ屋横町、③福留横町
 - ☆路地：国道より奥に入り横町を結ぶ道
- 魅力的な横町づくりには次の考え方がある。
 - A. 歴史、文化性をつなぐ道づくり
(例えば、大横町の小判稻荷を活用する)
 - B. イベント的賑わいを創出する道づくり
(例えば、きなこ屋横町、福留横町)
- まちを回遊することによって、自然とその町を良く知ることになり、町の特産や土産物などを購入するきっかけになる。また、滞在時間が長くなれば、飲食店への集客も期待できる。

【参考】

日光連山を臨む

大横町の奥から眺める日光連山

小判稻荷

虚空蔵尊社

したれ桜

稲荷神社

①大横町

②きなこ屋横町

③福留横町

きなこ屋横町の奥のしたれ桜

横町を結ぶ路地

①大横町

②きなこ屋横町

③福留横町

■まちづくりの視点	回遊性の高いまちづくり	B-2
■まちづくりの作法	街なかの空き地を活かして駐車スペースを確保しましょう！	

【考え方】

まちの中を歩いてもらうために、空いている土地などは駐車場として活用し、観光客が気軽に利用できる駐車スペースを確保しましょう。

【留意事項】

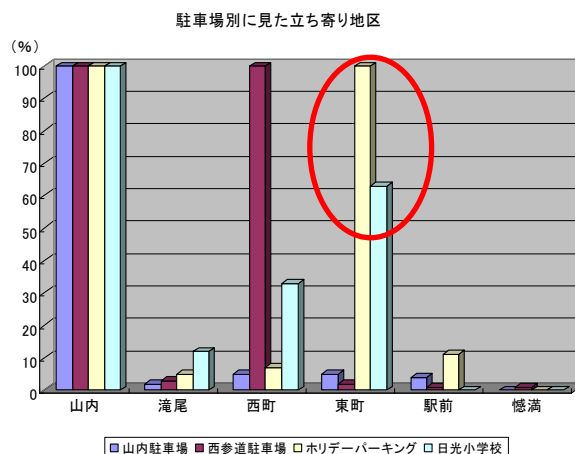
- ・通りに面したところに駐車場を設けることは、景観上好ましくない。しかし、通り一本入ったところの駐車場は分かりにくく、利用者は利用しづらい。こうした状況を解消するため、駐車場に分かりやすく誘導できる「サイン」を設置する。
- ・通りに駐車場を設置する場合には、街並み景観に調和するような修景をする。

【参考】

●日光東町のホリデーパークの取り組み

平成16年10、11月に、下鉢石町にある大規模な駐車スペースを利用した「街なか駐車場」交通予備実験が行われ、利用者は山内までの“歩き”は苦にならない、というアンケート結果が出ている。

また、以下の「駐車場別に見た立ち寄り地区」のグラフから、ホリデーパークや日光小学校臨時駐車場を利用した人のほとんどが東町へ立ち寄っていることが分かる。街なかの駐車場は、東町の回遊性の創出に有効であることが分かる。



●通りに面した駐車場の修景

駐車場を整備する場合は、通りから駐車している車が直接見えにくいように、周りの街並みに調和するように入り口を塀で覆っている。



通りに面した駐車場の修景(掛川市)

<p>■まちづくりの視点</p>	<p>賑わいのあるまちづくり</p>	<p>C-1</p>
<p>■まちづくりの作法 商業力を高めましょう！</p>		
<p>【考え方】</p> <p>日光東町の商業力が高まるように、より魅力ある店舗づくりに取り組みましょう。</p> <p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店構え、品揃え、接客術などをさらに向上させて、店舗本来の魅力を高める努力が基本である。 ・土産物店は、メイドイン日光の品揃えの充実を心がける。 ・お店の雰囲気が出店先に漏れるような建物の工夫としては、ウインドウショッピングを楽しめるようシャッターはシースルーにする。日光東町の商店の中には、ショウケースを上手に演出している例も見られる。 ・お店のディスプレイをシースルーにし、上手に演出するということは、歩く人に商品や店舗を見てもらうという効果をもつだけでなく、夜は店先に灯りがこぼれ街並みを明るくすることにもなる。 	<p>【参考】</p> <p>●日光東町の店先の明かり</p> <p>店の明かりは、まちを明るくすると共に、店の中の雰囲気がまちにしみ出し歩く人を楽しませます。</p>  <p>吉田屋さんの店先</p>  <p>三ツ山さんの店先</p>  <p>表参道画廊さんの店先</p>	

<p>■まちづくりの視点</p>	<p>賑わいのあるまちづくり</p>	<p>C-2</p>
<p>■まちづくりの作法 空家空店舗を活用しましょう！</p>		
<p>【考え方】 空き家や空き店舗を活用する仕組みを導入し、町外の人々にも商売を行える機会を広げ、新たな商業の賑わいを創出しましょう。</p> <p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日光東町は、商業地域、近隣商業地域に指定されているが、空き家や空き店舗が増えている。しかし、外部資本による商業施設の立地がみられるようになり、日光東町で商売をしたい、と考える外部の方々は少なくないと言える。 ・家を建て直す機会があれば、貸したい、借りたい、の関係が成立するよう、店舗と住居の分離した建物のつくりなど、貸しやすい環境をつくることが重要である。 	<p>【参考】</p> <p>●チャレンジショップ：富山市のフリーポケット 富山中央通り商店街の一角の小さなビルに、各約2坪のスペースで衣類や輸入雑貨・アニメキャラクターなど 15 のお店が入居するショッピングゾーンがある。月々25,000 円(最初の3ヶ月間は 15,000 円)の家賃・光熱費という格安の負担で1年間、商売の面白さや難しさ・コツを覚え、ノウハウを学びながら独立開業を目指す。実際に、30 数店舗が独立開業していると言われている。</p>  <p>●空き家バンク 持ち主と借り手を仲介する「空き家バンク制度」(空き家等活用情報システム)による空き家、空き店舗の利活用を促進する取り組みが全国的に行われている。 多くの場合は、第3セクターや商工会議所など公的機関が仲介役となり、貸し手、借り手の信用を担保した上で、運用されている例が多い。 空き家バンクは、中心市街地活性化の一手法として活用されている例が多いが、近年では過疎化対策の手法としても注目されてきている。</p>	

<p>■まちづくりの視点</p>	<p>おもてなしのまちづくり</p>	<p>D-1</p>
<p>■まちづくりの作法 店先を美しくしましょう！</p>		
<p>【考え方】</p> <p>観光客を迎えるときの心配りとして、店先をいつもきれいにしたり、水うちを行うなどをして、美しいまちづくりをしましょう。</p> <p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温多湿の日本では、昔から「夏」の暑さをしのぐためにいろいろな工夫がされている。住む人だけでなく、そばを通る通行人もが「涼」を感じられる工夫として、すだれや水うちなどがある。 ・冬の積雪時には、除雪をして歩く道を確保することも大切なおもてなしとなる。その際に地域で協力して行う必要がある。 ・観光客などに対し、ごみを持ち帰る意識を高めるためにも、美しい店先や町全体の雰囲気づくりは有効である。 		<p>【参考】</p> <p>●店先のおもてなしの例(京都)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都では、夏の暑い時期に店先に水うちをして、涼を演出し、店先を歩く人や店を訪れる人をもてなしています。  <p>京都の料理屋での店先の水うち</p>

■まちづくりの視点	おもてなしのまちづくり	D-2
■まちづくりの作法	夜の灯りを演出しましょう！	

【考え方】

多くの観光都市では、光の演出による夜の賑わいを創出する試みが行われています。「いのり」のまちにふさわしい「灯り」の演出を行いましょう。

【留意事項】

- ・蠟燭ろうそくなどの明かりは心を落ち着ける効果をもち、まちづくりのテーマである「いのり」に通じる視点と言える。そのため、品のある灯りを心がける。
- ・足元灯のイベントをきっかけとして、灯りのイベントを行う機会を増やしていく。

【参考】

●足下灯を使った灯りのイベント

「祭いのりのまち」が感じられるように、昨年度末から足下灯を使った灯りのイベントを行っています。



郷土センター前にて
(2004年12月31日～2005年1月5日)



東武日光駅前広場にて
(2005年2月1日～2月13日)



世界遺産入口にて
(2005年4月13日～4月22日)

●日光東町のショウケースの演出

日光東町の店舗の中には、魅力的なショウケースがあるが、これらをスポットライトで照らすことも夜の魅力の向上につながります。



アミューズさん



日光ふだらく饅頭さん

■まちづくりの視点	おもてなしのまちづくり	D-3
■まちづくりの作法	休憩スペースを提供しましょう！	

【考え方】

東武日光駅から東照宮までの街並みを一気に歩いて上るのは大変なので、途中で休憩が取れる場所やベンチ、トイレなどを設置することで、歩いて楽しめるまちづくりに取り組みましょう。

【留意事項】

- ・休憩施設やトイレを設置することは、日光を訪れる人に対してもてなしの気持ちのあらわれである。
- ・ポケットパークなどに休憩施設を設ける際は、地域の共有財産として、周辺に住むみんなで管理していくことが大切である。
- ・店先に休憩スペースを設置する際は、バリアフリーに配慮し、歩道にはみ出さないようにする。

【参考】

●店先の休憩スペース

店先にちょっとしたベンチや休憩スペースを設けるだけでも、お客さまに喜ばれます。



綿半さんの休憩スペース

店の入口を入ってすぐの場所に、椅子とテーブルを置いてお茶を飲みながら休むことができるスペースを設けている。

●おもてなしの提供を案内するステッカー

日光市では、観光協会が観光客が気軽に利用できるおもてなしの空間や観光案内を提供することを知らせるステッカーを作っています。これをお店などでも取り入れて、おもてなしの提供に取り組みしましょう。



観光協会が行っているおもてなしのステッカー

■まちづくりの視点	おもてなしのまちづくり	D-4
-----------	-------------	-----

■まちづくりの作法	分かりやすい案内をしましょう！	
-----------	-----------------	--

【考え方】

案内は、分かりやすい案内板を設置するとともに、案内板だけに頼るのではなく、困っている人に声をかけたり、分かりやすく案内を行う工夫が必要です。観光客への声かけによる案内は、ふれあいの機会でもあり、積極的に行いましょう。

【留意事項】

- 案内板のデザインや盤面の内容(コンテンツ)は、地域の方々と交えて決めることが大切である。
- 地域の紹介したい内容を手作りのマップで地元から発信すると、そこでしかもらえない特別な観光マップが出来、観光客に喜ばれる。(→[参考])

【参考】

●手作り観光マップの例

鉢石では、ホリデーパークの取組みに合わせて、手作りの観光マップを住民で協力して作り、店に訪れた観光客に配っています。マップは、表面にお店の位置やその割引クーポンを、裏面に日光市街地全体の地図を載せ、使いやすく工夫されています。

●案内板(サイン)の例

直線的な誘導から、利用者の好奇心をくすぐるような面的誘導を図る目的で、さまざまな種類(説明する内容と表示の仕方)のサインを組み合わせ配置しましょう。

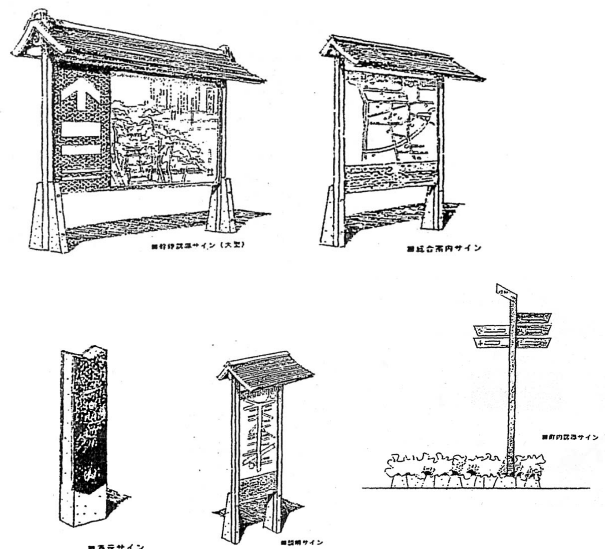
位置が確認できるよう、案内板とマップをリンクさせると、さらに分かりやすい案内板になります。



鉢石の観光マップ(表面)



鉢石の観光マップ(裏面)



用途に合わせたさまざまな種類の案内板の例

■まちづくりの視点	おもてなしのまちづくり	D-5
■まちづくりの作法	バリアフリーを推進しましょう！	
<p>【考え方】</p> <p>まちづくりにおけるバリアフリーとは、全ての人が安全に利用しやすい優しい環境をつくっていくことです。もともとは施設整備に対して用いられましたが、広義には、思いやりや助け合いの気持ちをもって人に接するということにつながり、このような姿勢で観光客を迎えるよう心がけましょう。</p> <p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日光東町は、駅から神橋に向かって4%の勾配があり、地形的バリアのある場所であるため、積極的に取り組む必要がある。 ・例えば、車椅子の介助や道が分からず困っている人に対する積極的なお手伝いを行う。 ・例えば、目の不自由な人のために安全に歩けるよう声をかける。 ・バリアフリーは、ハードの整備だけでなく、声かけやちょっとした気遣いなどソフトの視点からの対応も重要である。 ・積雪時における雪の対処も、バリアフリーの心がけのひとつといえる。 	<p>【参考】</p> <p>●商店街でのバリアフリーの取り組み</p> <p>バリアフリー商店街づくりを進めている商店街が全国で増えています。一例を以下に紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 段差の解消 ・ 高齢者や車椅子でも手が届く陳列棚の高さへの配慮 ・ 高齢者にも見える大きな価格表示 ・ 買い物バスの運行 ・ バリアフリー店舗マップの作成や表彰 	

■まちづくりの視点	各町の特徴を活かしたまちづくり	E-1																												
■まちづくりの作法	町の性格の違いを活かしましょう！																													
<p>【考え方】 それぞれの地区の持っている特徴を認識し、核となる場所を中心にゾーニングを考えます。統一を図る要素と個性を発揮する要素を明確にし、個性のあるブロックが連続したまちとして特徴あるまちづくりを行います。</p> <p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考のCブロック(松原町)を通過する観光客には、鳴虫山や奥日光の登山客も含まれます。東武日光駅が山小屋風の駅舎なので、まちなみにはこうした背景を意識することも必要です。 ・参考のAブロック(上・中・下鉢石町)は、二社一寺に近く、伝統的な和風の建築が並ぶ空間がイメージしやすい。また、古くから「宿場」であったことから、日光街道の最後の「宿」としての性格を意識したまちづくりが望まれます。 																														
<p>【参考】</p> <p>●日光東町の3つのブロックと性格付け</p> <p>日光東町の6自治会は概ね以下のような3つのブロックに大別されます。</p> <p>Aブロック: 上鉢石町・中鉢石町・下鉢石町 Bブロック: 御幸町・石屋町 Cブロック: 松原町</p> <table border="1" data-bbox="395 1556 1465 1960"> <thead> <tr> <th></th> <th>Aブロック</th> <th>Bブロック</th> <th>Cブロック</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>上鉢石町</td> <td>中鉢石町</td> <td>下鉢石町</td> </tr> <tr> <td></td> <td>御幸町</td> <td>石屋町</td> <td>松原町</td> </tr> <tr> <td>生活者・旅行者からみて(現状)</td> <td colspan="2">観光商業ゾーン 門前町型商業</td> <td>観光商業ゾーン 駅前商店型商業</td> </tr> <tr> <td>旧き良き時代</td> <td colspan="2">生活関連商業ゾーン 最寄り品型商業</td> <td>観光客の回遊</td> </tr> <tr> <td>色に例えて(現状~将来)</td> <td colspan="2">セピア</td> <td>落ち着いた</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>明るい</td> </tr> </tbody> </table>				Aブロック	Bブロック	Cブロック		上鉢石町	中鉢石町	下鉢石町		御幸町	石屋町	松原町	生活者・旅行者からみて(現状)	観光商業ゾーン 門前町型商業		観光商業ゾーン 駅前商店型商業	旧き良き時代	生活関連商業ゾーン 最寄り品型商業		観光客の回遊	色に例えて(現状~将来)	セピア		落ち着いた				明るい
	Aブロック	Bブロック	Cブロック																											
	上鉢石町	中鉢石町	下鉢石町																											
	御幸町	石屋町	松原町																											
生活者・旅行者からみて(現状)	観光商業ゾーン 門前町型商業		観光商業ゾーン 駅前商店型商業																											
旧き良き時代	生活関連商業ゾーン 最寄り品型商業		観光客の回遊																											
色に例えて(現状~将来)	セピア		落ち着いた																											
			明るい																											

■まちづくりの視点	各町の特徴を活かしたまちづくり	E-2
■まちづくりの作法	町印やイメージカラーの活用を図りましょう！	

【考え方】

「町印」は、自治会単位で有する文字通り「町」の「紋」「印」です。東町の町印は、町単位で行う弥生祭の家体の提灯などにみられます。「町印」や、家体などのまん幕に使われている町の固有の色を活用し、各町の個性をまちづくりに活かしましょう。

【留意事項】

- ・各町が、町の個性化のために町印を多用すると、うるさく感じる可能性がある。
- ・各家に応用するのではなく、街路空間のブロック化につながるように配置する。
- ・町印やイメージカラーを統一することで、各町の個性が街路空間において、より発揮できる。

【参考】

●日光東町の町印

町毎に町印や屋台のまん幕の色が異なります。



●町印の取り入れ方

町印は、各町のアイデンティティ(個性)を表現するものとして、色々な応用が考えられます。

- 例)
- ・街路灯
 - ・サイン(案内板)
 - ・公民館などの公共施設
 - ・番地プレート など



御幸町家体庫の町印

■まちづくりの視点	調和した街並み	F-1
■まちづくりの作法	現存する和風の建築を参考にしましょう！	

【考え方】

和風とは、和の部分が取り込まれていること、和の感じ取れる建築物という意味です。
今も日光東町に残っている和風の建築物を参考にしながら、全体として調和した建築物が並ぶ街並みにしていきましょう。

【留意事項】

- ・これから建て替える建築物は、例示された和風の建築物に似せる、という発想ではなく、調和するように配慮する、という姿勢が必要です。
- ・日光東町の和風のイメージは、[資料3]を参考にする。

【参考】

- ・日光東町に立地する和風の建築物で参考になるものを抽出したものが下図の建築物です。



■まちづくりの視点	調和した街並み	F-2
-----------	---------	-----

■まちづくりの作法	天然の素材にこだわりましたよ！	
-----------	-----------------	--

【考え方】

長期的な視点でまちづくりを考えたとき、使用する素材選びには、時間が経てば経つだけその風合いを増し、味わいを増す天然の素材を用いましょう。

【留意事項】

- ・日光の建築物は木造のものが多く、火災への対応等の配慮が求められる。
- ・地元の素材を部分的にでも積極的に使う。
- ・街路空間にも天然の素材が使用されることになっている。建物の素材にこだわることで、街路空間と調和したまちなみの創出が期待できる。

【参考】

●建築への適用

- ・建築には、杉、檜などの木材や、竹、なしめ石、大谷石、御影石、銅、などを上手く利用するとよいでしょう。



純木造建築
(日光物産)



大谷石の石蔵



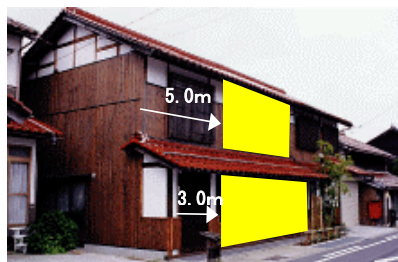
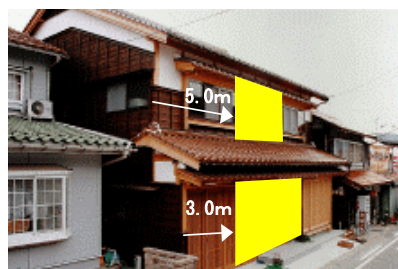
小林邸
石張りとはり壁の
合築

●木造建築物の外壁の構造について

日光の建物は、木造建築がほとんどです。木造建築の場合、可燃材である木材を外壁に使用する板張りの装飾は、建築基準法による規制により、隣地境界線から1階部分は3m、2階部分は5m では延焼の恐れがあるため使用できません。つまり、壁面に木材など可燃材の装飾を行えるのは、下の黄色く示した部分となります。

ただし、窓や玄関戸、格子戸などの建具を木製とすることや付柱はこれに当たりません。

また、鉄筋造や鉄筋コンクリート造の場合、このような規制はありません。



■ 木材による装飾が可能な部分

■まちづくりの視点	調和した街並み	F-3
-----------	---------	-----

■まちづくりの作法 壁面と屋根の基調となる色を尊重しましょう！

【考え方】

建物の色は、自然素材に馴染むように素材の色（茶＝木、グレー＝石 等）を基調とし、これに調和する色を用いましょう。

屋根の色は、壁面の色との調和を考え、「日光国立公園日光地域管理計画書」に基づく色を用い、色彩における街並みの調和を図りましょう。

【留意事項】

- ・日光東町の街なみ基調色として用いてほしい色相は、マンセル表色系の、無彩色、赤(R)、青赤(YR)、黄(Y)である(下表赤枠に対応)。
- ・下表下段の原色(生色)やパステルカラーは、素材の色に馴染まず、また、退色しやすく汚れが目立ちやすいため、経年変化や汚れに強い低彩度色を用いるようにする。

【参考】

●「日光国立公園日光地域管理計画書」、環境省自然環境局 北関東地区自然保護事務所、平成 13 年 12 月より

〈 屋根の色の取扱方針 〉

色彩は焦げ茶系色、茶系色、暗灰系色又は黒色であること。ただし、銅板、黒灰色の和瓦 等を用いる。

●日光の伝統的な屋根の色とは・・・

日光の屋根の色は伝統的に、黒であった。日光では風土的に瓦屋根が付かず、トタン屋根が主流であった。そのトタン屋根をコールドールで黒く塗るのが一般的であった。

●日光東町の街並み（壁面）の基調色（図中、赤い枠の範囲が用いてほしい色）

無彩色	赤(R)	黄赤(YR)						黄(M)	黄緑(GY)	緑(G)	青緑(BG)	青(B)	青紫(PB)	紫(P)	赤紫(RP)
N9.0		5YR9.0/0.5	5YR9.0/1.0	10YR9.0/0.5	10YR9.0/1.0	5Y9.0/0.5	5Y9.0/1.0	5GY9.0/0.5	5G9.0/0.5	5BG9.0/0.5	5B9.0/0.5	5PB9.0/0.5			
N8.5		5YR8.5/0.5	5YR8.5/1.0	10YR8.5/0.5	10YR8.5/1.0	5Y8.5/0.5	5Y8.5/1.0	5GY8.5/1.0	5G8.5/0.5	5BG8.5/0.5	5B8.5/0.5	5PB8.5/0.5			
N8.0	5R8.0/0.5	10R8.0/0.5	5YR8.0/0.5	5YR8.0/1.0	10YR8.0/0.5	10YR8.0/1.0	5Y8.0/0.5	5Y8.0/1.0	5GY8.0/1.0	5G8.0/1.0	5BG8.0/1.0	5B8.0/1.0	5PB8.0/1.0	5P8.0/0.5	5RP8.0/0.5
		10R8.0/1.0	5YR8.0/1.5	5YR8.0/2.0	10YR8.0/1.5	10YR8.0/2.0	5Y8.0/1.5								
N7.5	5R7.5/0.5	10R7.5/1.0	5YR7.5/0.5	5YR7.5/1.0	10YR7.5/0.5	10YR7.5/1.0	5Y7.5/0.5	5Y7.5/1.0	5GY7.5/1.0	5G7.5/0.5	5BG7.5/1.0	5B7.5/1.0	5PB7.5/1.0	5P7.5/0.5	5RP7.5/0.5
N7.0	5R7.0/0.5	10R7.0/0.5	5YR7.0/0.5	5YR7.0/1.0	10YR7.0/0.5	10YR7.0/1.0	5Y7.0/0.5	5Y7.0/1.0	5GY7.0/1.0	5G7.0/1.0	5BG7.0/1.0	5B7.0/1.0	5PB7.0/1.0	5P7.0/0.5	5RP7.0/0.5
		10R7.0/1.0	5YR7.0/1.5	5YR7.0/2.0	10YR7.0/1.5	10YR7.0/2.0	5Y7.0/1.5								
N6.0	5R6.0/0.5	10R6.0/0.5	5YR6.0/0.5	5YR6.0/1.0	10YR6.0/0.5	10YR6.0/1.0	5Y6.0/0.5	5Y6.0/1.0	5GY6.0/1.0	5G6.0/1.0	5BG6.0/1.0	5B6.0/1.0	5PB6.0/1.0	5P6.0/0.5	5RP6.0/0.5
		10R6.0/1.0	5YR6.0/1.5	5YR6.0/2.0	10YR6.0/1.5	10YR6.0/2.0	5Y6.0/1.5								
N5.0	5R5.0/0.5	10R5.0/0.5	5YR5.0/0.5	5YR5.0/1.0	10YR5.0/0.5	10YR5.0/1.0	5Y5.0/0.5	5Y5.0/1.0	5GY5.0/1.0	5G5.0/1.0	5BG5.0/1.0	5B5.0/1.0	5PB5.0/1.0	5P5.0/0.5	5RP5.0/0.5
		10R5.0/1.0	5YR5.0/1.5	5YR5.0/2.0	10YR5.0/1.5	10YR5.0/2.0	5Y5.0/1.5								
N4.0	5R4.0/0.5	10R4.0/0.5	5YR4.0/0.5	5YR4.0/1.0	10YR4.0/0.5	10YR4.0/1.0	5Y4.0/0.5	5Y4.0/1.0	5GY4.0/1.0	5G4.0/1.0	5BG4.0/1.0	5B4.0/1.0	5PB4.0/1.0	5P4.0/0.5	5RP4.0/0.5

※この規範は印刷物であるため、一覧表の色は飽くまでこんな色のイメージと捉えてください。

■まちづくりの視点	調和した街並み	F-4
■まちづくりの作法	まちなみに合った看板にしましょう！	

【考え方】

看板は、店の顔であり店の個性を表現するための小道具でもあります。

日光東町の看板は、看板の種類、設置面積、位置、素材に配慮し、和風の街並みに調和したものとしましょう。

【留意事項】

- 日光東町独自の手引き[資料4]を参考にする
 - ・県の屋外広告物条例の規制に加え、看板の種類、設置面積、位置、素材、照明に対し、日光東町の街並みに調和するための規制、誘導を図ったものが「日光東町における屋外広告物の手引き」である。
- 看板の種類は多用しない
 - ・日光東町の看板の種類は、屋根看板、壁面看板、壁面突出広告物(袖看板)、敷地内独立広告板、暖簾・太鼓幕などに制限する。のぼり旗は、臨時的活用以外は自重する。
- 看板の性格の違いを認識する
 - ・屋根看板は、建物の顔であり、その店舗の品格を表すものとして設置する。
 - ・袖看板は、隣の建物の景観を邪魔しないよう設置位置や大きさに配慮する。
 - ・暖簾・太鼓幕は、日よけの機能を合わせもった看板のひとつであり、積極的に使用したい。
- 出来るだけ天然素材を用いる
 - ・天然素材を用いるなど、看板の素材、材料は、和風の街並みとの調和に配慮する。
- 街並みの夜の演出のひとつと考える
 - ・街路灯の明かりとの調和に配慮し、直接照明ではなく、間接照明による演出とするなど工夫する。
 - ・ネオンランプのような派手な照明は控える。

【参考】

●日光東町の和風建物に馴染む看板



和風建物に馴染む素材を使い、軒の上に設置された看板が多い。

英語表記の看板



■まちづくりの視点	調和した街並み	F-5
■まちづくりの作法	建物と空間の連続性に配慮しましょう！	

【考え方】

建物の連続性を持たせることは、町の人々が協調して街並みを形成していこうという姿勢のあらわれと言えます。

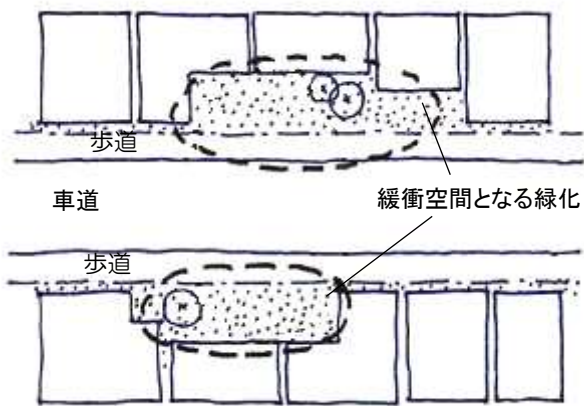
建物や空間に連続性を持たせることは、隣と同じものをつくらなくてはいけないのではなく、周辺に調和したものをつくることです。連続性を持たせることで、地域全体の一体感を形成しましょう。

【留意事項】

- ・建築の連続性とは、まず空間的、視覚的に連続させることで創出される。
- ・少なくとも向こう三軒両隣の建物に配慮して、調和するような外観の建築にするよう心がける。
- ・例えば、素材、色彩、高さ、構造などに配慮する。
- ・やむをえず調和のとりにくい建物になる場合は、緩衝空間となるような緑化(まちなか緑)を行い、周辺の連続性を損なわない配慮をする。

【参考】

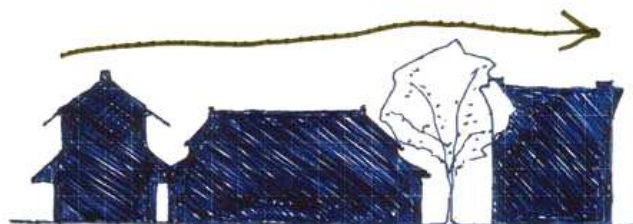
《空間的な連続》



壁面線をそろえる

やむをえず調和のとりにくい建物になる場合は、緩衝空間となるような緑化をおこなう

《視覚的な連続》



建築の高さに配慮する

軒の高さに配慮する

使用する素材や色彩に配慮する